



スリランカ民主社会主義共和国

スリランカの教育制度(1)

- 面積:6万5,610平方キロメートル(北海道の約0.8倍)
- 人口:2,216万人(スリランカ中央銀行, 2021年)
- 民族:シンハラ人(74.9%)、タミル人(15.3%)、スリランカ・ムーア人(9.3%)
- 言語:公用語(シンハラ語、タミル語)、連結語(英語)
- 宗教:仏教(70%)、ヒンドゥ教(13%)、イスラム教(10%)、キリスト教(8%)
- 平均寿命:男性73歳、女性80歳(世界銀行, 2020年)
- 成人識字率:92%(世界銀行, 2020年)

スリランカにつながる本邦在留者のうち、在留期限がない永住者は11%、特定分野の技術もしくは知識等を必要とする業務の従事者が取得できる技術・人文知識・国際業務は27%、外国籍者の扶養を受ける配偶者または子どもが取得できる家族滞在は18%であり、以上で本邦在留者の過半を占める(総務省統計局, 2022年6月)。

学校体系と取得可能な資格・学位

- スリランカの義務教育期間は、初等学校から上級中等学校までの計11年間である。
- 2018年の純就学率は、初等教育(1~5年生)99.46%、前期中等教育(6~9年生)99.87%、後期中等教育(10~11年生)84.21%である(UIS, 2022年)。
- 学年暦は1月~12月である。

就業前教育機関	
初等学校 (小学校)	1年生 (5~6歳)
	2年生 (6~7歳)
	3年生 (7~8歳)
	4年生 (8~9歳)
	5年生 (9~10歳)
下級中等学校 (中学校)	6年生 (10~11歳)
	7年生 (11~12歳)
	8年生 (12~13歳)
	9年生 (13~14歳)
上級中等学校 (高等学校)	10年生 (14~15歳)
	11年生 (15~16歳)
技術カレッジ、コレジイト	
大学	

☀️
初等教育は日本より1年短く、前期中等教育は1年長い。
就学年齢は日本より1年早い5歳である。

- ★初等学校修了証
- ★下級中等学校修了証
- ★GCE-OLレベル
- ★GCE-ALレベル(大学入学資格)
- ★ディプロマ★準学士
- ★学士★修士★博士

就学手続き・学校区域指定の有無

- 保護者が子どもを就学させる義務を負う。
- 普通教育を提供する約11,000の学校のうち、97%が公立学校(国立20%、州立80%)である。小中高一貫校が多い(約60%)。
- 学校区域指定はないものの、原則として自宅から最も近い公立学校に入学する。ただし、両親や兄弟の出身校であれば入学が許可される。
- 就学手続きは、5歳になったことを証明する住民票を学校に提出する。

学校教育費

- 公立学校は、小学校から大学まで無償である。教科書は無償貸与、制服は1着分の生地が毎年支給される。学用品などは保護者の負担である。

進学要件

- 下級中等学校:初等学校修了
- 上級中等学校:下級中等学校修了
- コレジイト:GCE-OLレベルの主要科目のうち数学および第1言語を含む3科目で合格
- 大学:GCE-ALレベルの主要科目のうち数学および第1言語を含む3科目で合格

GCE (General Certificate of Education)とは、イギリスと旧植民地などで実施されている試験であり、高校卒業水準のO(Ordinary)レベル、大学入試に必要なA(Advance)レベルがある。スリランカでは上級中等学校卒業時(11年生)にOLレベルを受験し、合格すれば、大学進学準備教育課程であるコレジイトに入学できる。同校修了時にALレベルを受験し、合格すれば大学進学ができる。得点に応じて各大学が選抜する。

スリランカの教育制度(2)

障害のある子どもの就学

※「特別支援教育」や「特別教室」の定義は、国により様々である。

スリランカでは、2003年の「障害者に関する国家政策」により、インクルーシブ教育の推進が打ち出された。

2013年の「教育ファースト政策」により、「特別な配慮」が必要な子どもたちも通常学級で学ぶことが推奨され、「2018-25年教育セクター開発計画」では、インクルーシブ教育を2025年までに全普通教育課程で実施することを目指し、障害のある子どもたちのための環境整備を進めるとした。特別な配慮の必要性が認められた子どもについては、個別教育計画を策定し、その計画に基づき個々の教育的ニーズに応じた教育を提供することになっている。

しかし、UNICEF(2021年)によれば、予算不足や施設・機材の不足、特別な訓練を受けた教員の不足等から、障害のある子どもへの就学機会の提供は十分とは言えないようである。

● 就学手続き

- 1) 障害のある子どもの教育的ニーズに応じた教育を希望する場合、3歳以上で各自治体に設置されているアセスメントセンターにて発達評価を受ける。
- 2) 発達評価の結果に基づき、保護者の同意の下、就学先の学校が決定される。

● 障害のある子どもの教育の場

通常学校

通常学校の学級において、障害のある子どもも障害のない子どもとともに学ぶ。

特別教育ユニット(Special Education Unit)

日本の特別支援学級に相当する学級で、704教室が設置されている(2016年)。

特別学校(Special School)

日本の特別支援学校に相当する学校で、盲学校、聾学校、知的障害児向けの特別学校などが29校ある(2019年)。

自閉症のある子どもを対象とした国立自閉症児専門センターがある。また、重度障害のある子どもたちは、在宅およびコミュニティセンターでの教育を受けることも可能である。



指導上の留意点

- 比較的新しい概念である、自閉症やADHDなどを含む「発達障害」について、保護者は十分理解していない、または障害と認識していない場合がある。
- 来日前の教育の状況、家庭環境や成育歴、母語の発達の状況などが子どもの発達に影響を及ぼしていることに留意が必要である。

スリランカの教育内容(1)

- カリキュラム・フレームワークが改訂され、2023年から新カリキュラムが順次導入されることになっている。同改訂では、試験中心の教育から、学習のプロセスに焦点を当てた学習者中心の教育への転換が示された。
- 教育言語は主にシンハラ語またはタミル語(シンハラ語73.3%、タミル語24.2%、その他2.5%)である。

教科(小学校・中学校)

- 新カリキュラムによると、小学校(1~5年生)では、9教科を学ぶ(母国語、英語、第二母国語、算数、初等科学と環境関連活動、宗教・価値教育、総合美術教育、保健・体育教育、課外活動)。
- 英語は、シンハラ語とタミル語をつなぐ連結語とされる。小学校1年生から、英語を第一外国語(必修)として学習する。
- 新カリキュラムによると、中学校(6~9年生)の学習課程は、主要科目、選択科目、課外活動で構成されている。主要科目は、母国語、英語、第二母国語、算数、理科、宗教・価値教育、保健・体育教育、情報技術、地理と国際学、歴史、公民教育、商学・起業家教育、美術、テクノロジーである。課外活動には、スポーツ、社会活動(カデット(士官候補生のための青少年団体)、青少年赤十字社、聖ヨハネ救急隊など)、クラブ・サークルなどがある。
- 中学校では、数学および理科は英語で授業が行われる。

評価・進級制度

- スリランカ政府は、総括的評価から、形成的評価に重点を移す方針を打ち出した。
- 新カリキュラム・フレームワークにおいては、小学校1~3年生は、学習は形成的評価のみで評価され、定期試験はない。小学校4~5年生は、形成的評価50%、総括的評価50%の割合で評価される。
- 留年制度がある。最低限必要な単位を取得しなければ、その学年を修了することはできない。一方、学習スピードの速い児童生徒は、より早く、全国試験(GCE-OLレベルとGCE-Aレベル)を受ける要件を満たす。



1~11年生までの進級率は高いが、上級中等教育修了時(11年生の12月)に実施される全国試験(GCE-OLレベル)に合格しなければ、高等教育に進めない。(2021年のGCE-OLレベルの合格率は約75%。)

- 初等教育最終学年の残存率(※)は99%(世界銀行、2019年)。

(※)初等教育の最初の学年に入学した子どものうち、最終学年に到達した子どもの割合。

修了率(※):初等教育99%、前期中等教育95%、後期中等教育38%(2016年)

(※)各教育段階の最終学年該当年齢より3~5歳年齢が高い子どものうち、最終学年を修了した子どもの数の割合(データは、UNICEF、2022年)。

スリランカの教育内容(2):算数カリキュラム

初等算数教育の学習内容系統一覧表(日本の学習領域に則り整理)

領域/学年*	1年	2年	3年	4年	5年
数と計算	●20までの数	●100までの数	●1000までの数	●1万までの数 ●10までのローマ数字	●10万までの数 ●20までのローマ数字
	●1位数の加法・減法(繰り上がり・繰り下がりなし)	●20までの加法・減法(繰り上がり・繰り下がりあり) ●2位数の加法・減法の筆算(繰り上がり・繰り下がりなし)	●2位数の加法・減法(繰り上がり・繰り下がりあり) ●九九(2、5、10の段) ●除法の計算(除数が2の数のみ) ●余りのある除数	●3、4位数の加法 ●3位数の減法 ●九九(3、4の段) ●乗法の筆算(2位数)×(2~5、10の数) ●除法の筆算(2、3位数)÷(2~4の数)	●4位数の加法・減法 ●九九(6~9の段) ●乗法(2、3位数)×(2~10の数) ●除法(2、3位数)÷(2~10の数)
			●簡単な分数の意味(1/2、1/4)	●分数の読み書き(1/2、1/4)	●1未満の分数の読み書き(分母が4、10) ●小数の意味(小数第1位)
図形	●身の周りの平面図形・立体図形の観察 ●ものの位置	●長方形、正方形、三角形、円の性質	●方向の概念(左・右) ●直方体、立方体、円柱、角錐、球の性質	●点と直線 ●方角の概念(東・西・南・北) ●対称な図形	●直角 ●立体図形の要素(頂点、辺、面) ●展開図
測定/変化と関係	●長さの比較 ●重さの比較 ●かさの比較	●長さの測定(任意単位) ●重さの測定(任意単位) ●かさの測定(任意単位)	●長さの単位(m) ●重さの単位(kg) ●かさの単位(L)	●長さの単位(cm) ●重さの単位(g) ●かさの単位(mL)	●長さの単位(km) ●長さ、重さ、かさの文章題
	●時間の概念(午前・午後、夜)	●カレンダー(曜日)	●時計の読み方(時) ●カレンダー(日・週・月)	●時計の読み方(5分刻み)	●12時制と24時制 ●経過時間
データの活用		●形や色、大きさによるものの分類	●表	●棒グラフ	●タイムテーブル ●度数分布表と棒グラフ

*スリランカでは5歳から小学校に入学するため、日本よりの入学年齢が1歳早い。日本の1年生とスリランカの2年生が同じ年齢となる。



数と計算領域を指導する際の留意点

●各学年で学習する整数

スリランカの各学年で学習する整数は、日本よりも小さい。例えば、日本の3年生は1億まで学習するのに対し、スリランカの4年生(日本では3年生になる年齢の子ども)は1万までしか学習しない。そのため、整数の学習の前に追加的な指導が必要である。例えば、4年生から日本で学習する子どもには、学習の前に1万~1億までの数を指導する必要がある。

●分数の学習時期

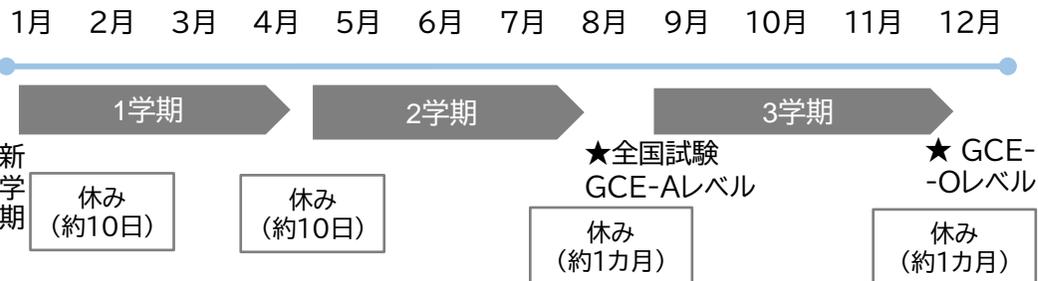
日本では2年生から分数を学習するが、スリランカでは4年生(日本の3年生の年齢の子ども)からである。例えば、3年生から日本で学習する子どもには、分数の意味や読み方などの指導が必要である。

●小数の学習時期

日本では3年生から小数を学習するが、スリランカの小学校では小数を学習しない。例えば、4年生から日本で学習する子どもには、小数の意味や読み方、簡単なたし算・ひき算などの指導が必要である。

スリランカの学校文化

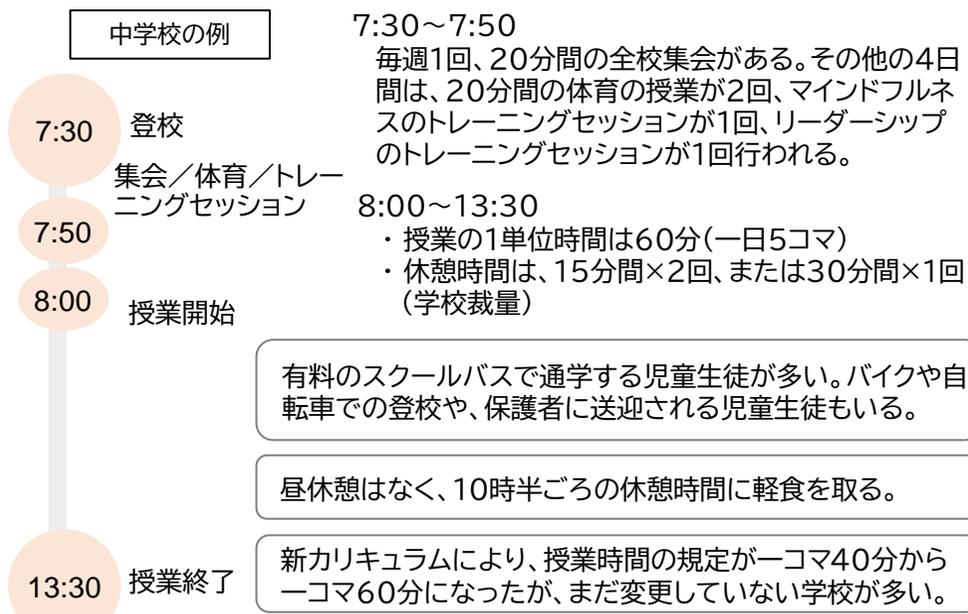
1年間の学校行事



- ※1 1学期を10～12週間とする3学期制である。
- ※2 1月下旬と4月中旬(シンハラ・タミル正月)に約10日間、8月と12月に約1カ月間の休みがある。
- ※3 2021年と2022年は、COVID-19のまん延等により、学期の開始が遅れた。

1日の流れ

- 授業があるのは月曜日から金曜日であり、土・日・祝日は休みである。
- 年間授業日数は210日であり、小学校での学習時間(休憩時間等を含む)は1日5時間以上、中学校では1日6時間以上である。



学校のルール・習慣

- 男子生徒は短髪、髪が長い女子生徒は髪を結う規則がある。
- GCE-Aレベルを受験した学生のうち、大学に入学できるのは上位わずか6%である。そのため、家庭教師や塾の需要は高く、家庭教師や塾にお金をかける世帯の割合は64%(2006-2007年)であり(Damayanthi, 2017年)、近年さらに増加している。富裕層だけでなく貧困層も、家計における子どもの教育への支出の割合が高いことが指摘されている。

学校生活に必要なもの

- 小学校から高等学校まで、教科書と制服の生地は無料で支給される。ノート等文房具は購入する必要がある。
- 貧困地域にある学校に通う児童生徒に対し、給食や靴の提供、貧困世帯を対象にした奨学金などの支援制度がある。

勉強以外の活動

- 地域や学校によっては、運動会、文化的行事、修学旅行、遠足等を実施している。

保護者の関わり

- 保護者面談は年3回行われる。
- 授業参観や家庭訪問は実施されていない。
- 校長(委員長)および教頭と、選任された教員、保護者、元生徒、教育庁の代表で構成される学校開発委員会(School Development Committee)がある。委員の任期は3年間であり、少なくとも月1回会合が開催され、年間実施計画の策定等を行う。



指導上の留意点

- スリランカでは厳しい受験戦争のため、多くの子どもは学校が終わると塾や家で勉強をして過ごす。学校の授業が終わった後に、教員から有料で個人指導を受けることもめずらしくない。保護者から個人指導等の依頼を受けた場合は、日本にはそのような慣習がないことを丁寧に説明する必要がある。

参考文献

- 外務省. スリランカ民主社会主義共和国(Democratic Socialist Republic of Sri Lanka) 基礎データ. (オンライン) 2022年11月4日. (引用日: 2023年1月19日.) <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/srilanka/data.html>.
- The World Bank. World Development Indicators. Data Bank. (オンライン) 2022年12月22日. (引用日: 2023年2月15日.) <https://databank.worldbank.org/reports.aspx?source=2&country=LKA>.

(学校制度)

- スリランカライフ. 熾烈な受験戦争！スリランカの学校と教育制度. (オンライン) 2017年1月31日. (引用日: 2023年1月13日.) <https://srilankalife.net/life/education/>.
- 総務省統計局. e-Stat 政府統計の総合窓口. 在留外国人統計(旧登録外国人統計). (オンライン) 2022年6月. (引用日: 2023年1月13日.) <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00250012&tstat=000001018034>.
- 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構. 高等教育・質保障システムの概要 スリランカ. (オンライン) 2020年3月. (引用日: 2023年1月13日.) https://www.niad.ac.jp/media/001/202003/overview_srilanka.pdf.
- 独立行政法人国際協力機構(JICA). インクルーシブ教育アプローチを通じた特別なニーズのある子どもの教育強化プロジェクト. (オンライン) (引用日: 2023年3月8日.) <https://www.jica.go.jp/project/srilanka/009/index.html>
- 日本貿易振興機構(JETRO). BOP実態調査レポート 教育事情. (オンライン) 2015年3月. (引用日: 2022年12月24日.) https://www.jetro.go.jp/ext_images/theme/bop/precedents/pdf/lifestyle_education_bd.pdf
- 文部科学省. スリランカ. 世界の学校体系(アジア). (オンライン) 2017年. (引用日: 2022年12月24日.) https://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afiefieldfile/2017/10/02/1396848_005.pdf.
- 古田弘子他. スリランカのインクルーシブ教育政策: 2020年通達と「指導指針」に焦点をあてて. (オンライン) 熊本大学教育学部紀要 71 103-112, 2022-12-15. (引用日: 2023年3月20日.) https://kumadai.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=33029&item_no=1&page_id=13&block_id=21
- UNESCO. Profiles Enhancing Education Reviews (PEER) . Sri Lanka, INCLUSION (オンライン) 2021年6月29日. (引用日: 2023年1月17日.) <https://education-profiles.org/central-and-southern-asia/sri-lanka/~inclusion>.
- UNESCO Institute for Statistics (UIS). UIS. Stat. (オンライン) 2022年. (引用日: 2023年1月19日.) <http://data.uis.unesco.org/>.
- UNICEF Regional Office for South Asia (ROSA). Disability-Inclusive Education Practices in Sri Lanka. (オンライン) 2021年8月. (引用日: 2023年1月13日.) <https://www.unicef.org/rosa/media/17016/file/Country%20Profile%20-%20Sri%20Lanka.pdf>.
- UNICEF Sri Lanka. EVERY MIND Equal rights to education for children with Learning Disabilities in Sri Lanka. (オンライン) (引用日: 2022年12月24日.) www.unicef.org/srilanka/every-mind.

(教育内容・学校文化)

- 国際交流基金. 日本語教育 国・地域別情報 ネパール(2020年度). (オンライン) (引用日: 2023年1月15日.)
<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2020/index.html>.
- 日本貿易振興機構(JETRO). スリランカ BOP層実態調査 教育事情. (オンライン) 2015年. (引用日: 2023年1月22日.)
https://www.jetro.go.jp/ext_images/theme/bop/precedents/pdf/lifestyle_education_bd.pdf
- Cole, Rachel. Estimating the impact of private tutoring on academic performance: primary students in Sri Lanka. (オンライン) 2016年. (引用日: 2023年1月23日.)
https://www.researchgate.net/publication/304617715_Estimating_the_impact_of_private_tutoring_on_academic_performance_primary_students_in_Sri_Lanka.
- Dairy Mirror Online. English medium from Grade 1 next year: Minister. (オンライン) 2022年9月7日. (引用日: 2023年1月15日.)
https://www.dailymirror.lk/breaking_news/English-medium-from-Grade-1-next-year-Minister/108-244481.
- Damayanthi B.W.R. Economics of Private Tutoring in Sri Lanka: A Phenomenological Study. (オンライン) 2017年. (引用日: 2023年1月22日.)
<https://www.iiste.org/Journals/index.php/JEP/article/download/39735/40854>.
- Department of Examinations Sri Lanka. Performance of Candidates G.C.E. (O/L) Examination – 2021. (オンライン) (引用日: 2023年1月22日.)
<https://www.doenets.lk/statistics>.
- EDIRISINGHE Chaturika, 和田勉. スリランカの初等中等・一般情報教育と情報入試・検定. (オンライン) 2018年. (引用日: 2023年1月22日.)
https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/?action=repository_action_common_download&item_id=186738&item_no=1&attribute_id=1&file_no=1.
- Ministry of Education. NATIONAL CURRICULUM FRAMEWORK FOR SECONDARY EDUCATION IN SRI LANKA. (オンライン) 2020年. (引用日: 2023年1月22日.)
https://educationforum.lk/wp-content/uploads/2021/08/MoE_Framework_SecondaryEducation_2020Nov.pdf.
- Ministry of Education. Sri Lanka General Education Sector Development Plan (2020-2015). (オンライン) 2020年. (引用日: 2023年1月22日.)
https://planipolis.iiep.unesco.org/sites/default/files/ressources/sri_lanka_general-education-sector-development-plan-2021-2025.pdf.
- National Education Commission Sri Lanka. NATIONAL EDUCATION POLICY FRAMEWORK (2020-2030). (オンライン) 2022年. (引用日: 2023年1月22日.)
http://nec.gov.lk/wp-content/uploads/2022/10/NATIONAL-EDUCATION-POLICY-FRAMEWORK-2020-2030_Full-Text.pdf.
- The World Bank. Persistence to last grade of primary, total (% of cohort). (オンライン) (引用日: 2023年1月6日.)
<https://data.worldbank.org/indicator/SE.PRM.PRSL.ZS>.
- The World Bank. Lower secondary completion rate, total (% of relevant age group) - Sri Lanka (オンライン) (引用日: 2023年1月6日.)
<https://data.worldbank.org/indicator/SE.SEC.CMPT.LO.ZS?locations=LK>
- The World Bank. South Asia Human Development Sector School-Based Education Improvement Initiatives The Experience and Options for Sri Lanka. (オンライン) 2013年. (引用日: 2023年1月31日.)
<https://documents1.worldbank.org/curated/en/703311468334291228/pdf/777590NWP0p113001300IDU0Report0Copy.pdf>.
- UNICEF Data. UNICEF Global database on completion rate.(オンライン) 2022年5月.(引用日:2023年3月16日.)
<https://data.unicef.org/topic/education/primary-education/>

(算数カリキュラム)

- Mathematics Grade 5. Department of Educational Publications. (オンライン) 2020年. (引用日: 2023年1月30日.) <https://govdoc.lk/grade-5-mathematics-text-book>
- Mathematics Grade 4. Department of Educational Publications. (オンライン) 2020年. (引用日: 2023年1月30日.) <https://govdoc.lk/grade-4-mathematics-text-book>
- Mathematics Grade 3. Department of Educational Publications. (オンライン) 2019年. (引用日: 2023年1月30日.) <https://govdoc.lk/grade-3-mathematics-text-book>
- Mathematics Grade 2. Department of Educational Publications. (オンライン) 2019年. (引用日: 2023年1月30日.) <https://govdoc.lk/grade-2-mathematics-text-book>
- Mathematics Grade 1. Department of Educational Publications. (オンライン) 2019年. (引用日: 2023年1月30日.) <https://govdoc.lk/grade-1-mathematics-text-book>

質問紙調査

- スリランカ西部州教育局 職員1名への質問紙回答. (2023年1月30日.)

※ 為替レート: 2023年3月JICAレートにて換算(LKR1=0.3765100円), 百の位で四捨五入(500円以下の場合は十の位で四捨五入).